

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和5年度】

(評価日 令和6年6月26日)

1 施設の概要

施設名	岩手県立陸中海岸青少年の家
所在地 電話・FAX HP・電子メール	岩手県下閉伊郡山田町船越2-42 電話 0193-84-3311 FAX 0193-84-3312 ホームページ www.echna.ne.jp/~kenritu2/ 電子メール kenriturikuchu@echna.ne.jp
設置根拠	青少年の家条例
設置目的	(設置：昭和52年3月26日) 次代の担い手である青少年に、恵まれた自然環境のなかで、規律ある共同宿泊生活を体験させ、友情、共同、奉仕等の相互扶助の精神を養い、地域社会の発展に寄与しうる自主的で創造性豊かな青少年の育成を図る。
施設概要	【敷地面積】25,894㎡ 【建物面積】2,975㎡ 【主な施設】○管理・研修棟 ○体育館 ○宿泊棟 ○付帯施設 ○研修機材等 ○駐車場
施設所管課	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化財課 (電話 019-629-6171、メールアドレス DB0005@pref.iwate.jp)

2 指定管理者

指定管理者名	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日(5年間)
連絡先	盛岡市みたけ1丁目10番1号 電話 019-641-1127

3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	1 施設等の供用に関すること。 2 施設等の維持管理に関すること。 3 施設の利用促進及び指導に関すること。		
職員配置、管理体制	4名 (令和5年4月1日現在) (内訳) 正職員 1名 地域職員 3名	組織図	事業団本部 — 総括責任者 — 総括責任者補助 (1) — 警備員 (2)
利用料金	徴収していない		
開館時間	勤務時間 8時30分～17時15分 ※利用団体がある場合は、24時間	休館日	毎週月曜日(ただし、臨時開所することがある。)、12月28日～1月4日、その他所長が定める臨時の休所日

4 施設の利用状況

(単位：人)

(利用者数、稼働率等)	前期間平均	指定管理期間						備考
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	期間平均	
第1四半期	5,403	3,395	3,600	4,936			3,977	
第2四半期	7,780	3,011	4,040	5,499			4,183	
第3四半期	4,253	3,808	3,073	3,476			3,452	
第4四半期	3,542	1,311	2,815	3,739			2,622	
年間計(実績)	20,978	11,525	13,528	17,650			14,234	
年間計(計画)		21,200	21,242	21,285	21,327	21,370		

5 収支の状況

(単位：千円)

区分	前期間平均	指定管理期間						備考
		3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	期間平均	
収入	利用料金収入							
	指定管理料	35,393	38,747	40,404	41,119		40,090	
	自主事業収入	341	213	288	372		291	
	小計	35,734	38,960	40,692	41,491		40,381	
支出	人件費	5,754	13,065	13,571	14,079		13,572	
	維持管理費	30,259	27,532	28,277	29,720		28,509	
	事業費		0	0	0			
	自主事業費	403	203	270	378		284	
	小計	36,416	40,800	42,118	44,177		42,365	
収支差額	△682	△1,840	△1,426	△2,686		△1,984		

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見(満足度等)の把握方法

把握方法	アンケートの実施 (研修団体票・主催事業参加者・事業団施設一斉)	実施主体	陸中海岸青少年の家
------	-------------------------------------	------	-----------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 1件、要望 3件、その他 件
主な苦情、要望等	対応状況
研修室、宿泊室へのエアコン設置を希望します。夏場の利用にあたって空調設備が整っていないのは危険である。	県に対しての予算要望については、他に急を要する施設改修等の案件があるが、優先順位をあげて、予算要望を進めようと考えている。今年度に関しては、山田町より扇風機を借用し宿泊室に2台配備した。その他、非常口に簡易網戸を設置し、風を通す等の工夫をした。
宿泊室が寒い。電気ストーブ1台でも部屋が暖かくなると思うので検討をお願いしたい。	火気類の各部屋配置は防火管理上難しい。夏場の冷房、冬場の暖房の事もあるため、優先順位をあげて、予算要望を進めようと考えている。
Wi-Fi設備の設置を希望します。	県に対しての予算要望については、他に急を要する施設改修等の案件があるため、優先順位は高くはないが、予算要望を進めようと考えている。

その他利用者からの積極的な評価等

1 職員の対応関係

- ・親切に対応していただき、気持ちよく利用させていただきました。
- ・温かく笑顔で迎えてくださり、お見送りの際もパペットで可愛らしく、嬉しかったです。
- ・当日の変更にも柔軟に対応していただき助かりました。
- ・生徒の事をよく見てくださり、声がけもしていただきました。
- ・作り方やアニマルハンティングの説明など分かりやすく対応していただきました。
- ・支援が必要な子の対応もありがたいです。
- ・老人に対して親切に御指導頂いて有りがたかったです。
- ・バスの利用時、運転手の方が施設利用について詳しく話して下さりありがたいかったです。
- ・とても丁寧で子ども達にも目線を合わせて対応していただきました。
- ・何度も確認の電話をしていたのに、現状が異なりイメージの共有ができませんでした。
- ・指導者が変わり前回の利用と全然対応が違うので戸惑いました。

2 施設設備の内容

- ・トイレの利用に不便を感じました。(小さい子供たちのスリッパへの履き替えなど)

7 業務点検・評価 (※)

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績 (指定管理者の自己評価)	評価指標
管理業務等	1) 公の施設としての公共性を有することを十分に理解し、その趣旨を尊重した管理業務等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の設置目的に沿って、公平・平等かつ公正で透明性のある施設運営に努めた。 ・青少年の利用はもとより、広く一般にも施設を利用して頂けるよう、各種自主事業を展開し、公の施設が持つ公共性を最大限尊重した施設運営に努めた。 ・利用者はもとより、広く外部の声を収集して、それらの多様なニーズに応えるため、業務改善に取り組んだ。 	B
	2) 県民の平等な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・利用目的、年齢等に関わらず、幼児から高齢者まで、より多くの方々に施設を利用していただけるよう、各種自主事業を実施したほか、広報活動やより丁寧な利用ガイダンスに努めた。 	
	3) 設置目的を効率的かつ効果的に達成	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習、生涯スポーツ・レクリエーション普及・推進の拠点施設として、充実した宿泊研修・体験学習の場となるよう、各種整備に取り組んだ。 ・地域の有識者・技能者との連携・協働を進め、海や山など周辺の自然環境を活かした魅力ある自主事業の展開に注力した。 ・山田町教育委員会、山田町観光協会、船越湾漁協、山田町小・中学校校長会、地元NPO法人等で組織する外部有識者委員会「運営協議会」を開催。また、沿岸地域の生涯教育活動を担う団体等と「事業企画担当者情報交換会」を行った。 ・広く外部から施設運営に対する評価や提言等を頂き、その後の取り組みに反映させることで、管理運営水準の向上を図るとともに、開かれた施設づくりを推進した。 	
施設の利用状況	1) 目標値の達成 管理運営計画書に掲げる年間利用者数 21,285人	年間利用者数 17,650人 対目標値 △3,635人	B

	<p>2) 上記目標値に向けた取組みと、増減内容の把握</p>	<p>〈取組み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 出前事業を集客の柱に位置づけ、こちらから積極的に出向いて利用者確保に努めたほか、幼児向けプログラム「マリンキッズ」と新たに高齢者向け体操教室を取り入れ、新規需要の掘り起こしにも取り組んだ。 昨年に引き続きフリースクール等との連携により利用者確保に努めたほか、学びの場の提供にも取り組んだ。 <p>〈増減内容の把握〉</p> <p>目標値に対して利用者数が減少した主な理由として以下のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較すると利用者数は増加している。しかし、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したものの他の感染症等の影響もあったこと。 大雪の影響でサッカー場の積雪により「マリンランドサッカー交流会」の事業が中止となったこと。 少子化・人口減少に加え、時間経過とともに震災関連の利用（ボランティア、視察等）がほぼ無いこと。これからも震災関連での利用は見込めないと考察する。 	
	<p>3) 施設利用促進に係る広報等の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設要覧及び利用の手引きを更新し主要利用団体へ配布した。 ホームページのほか、フェイスブックなどSNSを活用して、情報をリアルタイムに発信した。 YouTubeで活動の仕方などを配信し、利用者への事前準備の一助となるように発信した。 学習合宿やスポーツ合宿利用、高齢者団体への勧誘など、利用目的を絞ったチラシを配布したほか、宮古・釜石地域の学校・幼稚園等を訪問して利用の勧誘を行った。 地元観光協会や町施設の協力を得て主催事業等情報を発信した。 宮古、沿岸南部教育事務所管内校長会議に資料を持参し、各種事業の施設PRを行った。 	
<p>会計業務の状況</p>	<p>適正な会計業務（収入・支出・契約等）の執行</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ正確な業務仕様書・積算書の作成と縦覧資料の開示などに努めた。 業者選定にあたっては、原則、県の入札参加資格者名簿から指名した。 会計規則に沿って入札等を実施したほか、契約担当者以外の者が業務の完了確認を行うなど、公平・公正・透明な事務執行に努めた。 顧問税理士の指導の下、公益法人会計に沿って適正に会計処理した。 	<p>B</p>

施設の維持管理状況	1) 施設設備の維持管理等業務の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設点検簿に沿って、1日2回の日常点検を実施。予防保全と不良個所の早期発見、早期修繕に努めた。 各法令の定めに従い、施設設備の保守点検・検査等を確実に実施した。 重点点検月を設け、普段、目が届きづらい箇所清掃・補修等を行った。 委託業者に対する業務指導を徹底し、安全性・利便性の確保など、利用者サービスの向上に取り組んだ。 備品においては、点検表を作成し、年1回自主点検を実施したほか、利用頻度の高いバスケットゴールについては月1回の点検を実施した。その他、備品一覧表を基に、写真付きの資料を整理し更新した。 備品廃棄においては、昨年に引き続き経年劣化等で使用不能な備品に関して積極的に廃棄した。 登山道やウォークラリーコースの草刈、伐木等整備を行うため、労働基準法に定める安全衛生教育講習を受講するなど、維持管理に従事する者の資質向上と作業中の事故防止に取り組んだ。 体育施設管理士（事業団有資格者）による巡回指導を実施し、より専門的な視点による施設管理に取り組んだ。 故障により令和3年8月から運転停止していたエレベーターの更新工事を実施していただき、利用者への利便性等の懸案事項を解決することができた。 	B
	2) 公有財産の適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> 財産の現状維持に努めるとともに、その状態を台帳等に記録・保存している。 破損や故障が生じた際は、速やかに県に報告するとともに、現状復旧等適切に対応した。 	
	3) 備品について備品台帳との整合性を図る	<ul style="list-style-type: none"> 年1回備品一覧表との照合確認を実施した。 備品の更新、廃棄等があった際は、速やかに台帳を更新した。 備品一覧表を基に、写真付きの資料を整理・更新した。 	
記録等の整理・保管	各種帳票書類の適正な整理保管	<ul style="list-style-type: none"> 各種帳票書類は、保存区分に沿って整理保管している。 個人情報については、事業団の取扱要領に従い、外部漏えいしないよう厳重に保管している。 定められた保存期間を過ぎた文書・帳票類については、適切に廃棄処分している。 	B
自主事業等の取組み	施設の設置目的に沿った、利用促進に繋がる方策に基づく事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズの把握に努め、利用者満足度の高い事業運営に努めた。 実施事業毎に内部評価を行い、スクラップ&ビルドを基本とし、新たな要素を取り入れるよう工夫した。 登山・トレッキング、釣り、お正月飾り作りなど多彩な事業を展開し、施設利用者を確保するとともに青少年の家の活動を広く知っていただく機会とした。 陸中海岸青少年の家ならではの海を活用したプログラムとして、「海釣り道場」を1回、「エンジョイ夜釣り」を2回実施した。 	B

(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	○成果のあった点 少子化・人口減少等の影響を踏まえ、出前事業を集客の柱に位置づけて新規需要の掘り起こしや、フリースクール等との連携により利用者の確保及び学びの場の提供に取り組み、利用者増に繋がった。(R5:17,650人、R4年度比:4,122人増) 地域の技能者との連携・協働を進め、周辺自然環境を生かした魅力ある自主事業を実施した。 ○改善を要する点 利用者数については、コロナ禍での利用制限が緩和され徐々に回復傾向にあるものの、少子化・人口減少等により目標値の83%にとどまっており、引き続き利用促進につながる取組に努めてほしい。	B
-----------------------------------	--	---

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	各業務に適した職員及び必要な有資格者の適正な配置	<ul style="list-style-type: none"> 管理計画書のとおり防火管理者等の有資格者及び業務に精通した者を配置した。 業務上有用な研修等の受講及び資格取得等を励行し、職員の資質向上に取り組んだ。 	B
苦情、要望対応体制	利用に関する各種問い合わせや要望及びトラブル等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 懇切丁寧な利用案内に努めた結果、利用者アンケート調査の結果において高い評価を得ることができた。 クレームについては、事業団クレーム対応要綱に沿って対応体制を構築している。当該年度、悪質なクレームは無かった。 利用者アンケート調査を実施し、要望等については可能な限り速やかに対応した。 	B
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	災害時・緊急時の対応や、防犯・防災対策として、マニュアルの作成や訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 事業団危機管理対応要綱及び危機管理要領に沿って「非常時対応マニュアル」を作成し、有事の対応に万全を期した。 事業団実施の普通救命講習を受講し、非常時の対応に万全を期した。 年2回の自衛消防訓練を実施した。その内、1回は実際に利用予定の保育園に要請し、避難訓練を実施した。職員の動きを再確認した。 	B
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	基本協定に基づく秘密の保持、個人情報保護及び法令遵守の確保 個人情報に関する書類の適切な保管管理	<ul style="list-style-type: none"> 事業団個人情報の保護に関する規定及びコンプライアンスマニュアルに基づき適切に対応した。 個人情報取得の際は、利用者の同意を求め、取得目的以外には使用しないよう職員に周知・徹底した。 事業団が実施する各種研修会に、管理職を含め参加するなどし、意識醸成に努めた。 毎月月末の朝会時に輪番制でコンプライアンス発表を実施して職員の意識醸成に努めた。 書類の保管・廃棄についても、マニュアルに沿って適正に処理した。 	B
県、関係機関等との連携体制	基本協定に基づく関係機関等との協力連携及び良好な関係の維持	<ul style="list-style-type: none"> 県及び関係機関との綿密な連携に努め、良好な関係を維持している。 引き続き山田町教育委員会と連携し、共催で事業開催を行ったほか、山田町農林課と連携し活動エリアの整備を行ったほか、山田町水産商工課と連携し関係を深めた。 外部有識者委員会（運営協議会）を介して、地元の多様な団体等と連携したほか、情報交換を行った。 「三陸リアス・シェアリングネイチャーの会」などの団体と新たな活動プログラムの企画を進めた。 	B

(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	○成果のあった点 概ね適正に運営されていると認められる。 ○改善を要する点 特になし。	B
-----------------------------------	--	---

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
サービス向上の取組み	サービス向上のための研修等の実施	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による接遇研修を年2回実施（事業団主催）した。 	B
利用者サービス	利用者サービス向上に向けた方策に基づく、適切な利用者サービスの実施 1) 利用者の要望に応じた施設開所 2) 利用者の意見を反映させた青少年育成事業の実施 3) 青少年育成の場として適正な施設環境及び設備機能の維持（衛生環境保持、安全点検、修繕等） 4) 障がい者等特別な配慮が必要な利用者に対する柔軟な対応、施設設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> 年間15日の臨時開所を実施し、17団体の利用者の要望に応えた。 外部有識者委員会（運営協議会）を開催し、広く外部の意見を収集、事業運営に反映した。 研修団体票等、各種アンケート調査の結果を踏まえ、方針を立て改善に取り組んだ。 安全、快適に利用していただくため、計画的な施設点検・修繕、清掃に取り組んだ。 アメニティの充実という観点で、平成30年度から浴室にシャンプー、リンス、ボディソープを設置し利用者から好評を得ている。 宿泊室ベッド周りの集中清掃を年1回実施した。 カメムシ等の不快を与える虫類の除去、マムシ、ハチの巣駆除、クマ除け鈴や撃退スプレーの貸与等、安全対策の強化に努めた。 登山道、ウォークラリー・アニマルハンティングコースの草刈や倒木処理、枝打ちを行い、安全確保に努めた。 山田町の農林課に要請しナラ枯れ等の危険木を伐採し、安全確保に努めた。 食物アレルギーや障がいについて、事前調査を行い、食堂スタッフも含め全職員に周知するとともに、適切な対応を徹底した。 ハートフルキャラバンにおいて要請のあった不登校児の対応を積極的に行った。 玄関前や花壇に花を植えるなどの美化活動を行った。 SNS（フェイスブック）を活用し、リアルタイムな情報発信を行った。 	B
利用者アンケート等	1) 利用者アンケートや意見箱の設置による利用者ニーズの把握 2) アンケート結果に基づく業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 利用団体若しくは個人利用の方に研修団体票、利用者アンケートを記入してもらい、その結果を管理運営に反映させた。 事業団管理施設共通アンケートを実施。その結果を管理運営に反映させるとともに、ホームページで公表した。 自主事業参加者にもアンケート調査を実施し、利用者のニーズ把握と改善点の収集を行った。 	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	○成果のあった点 利用者アンケートのほか、外部有識者委員会（運営協議会）を開催し、幅広い意見を参考にしながら施設運営に取り組んでいるほか、臨時開所（15日）をおこなうなど利用者のニーズを捉えた施設運営を行った。 ○改善を要する点 特になし。	B	

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	管理運営計画における収支の積算に対する適正な収支実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会計諸帳票は、公益法人会計基準に定められたとおり作成しており、運営計画との整合性が図られている。 ・予算の執行にあたっては、利用者に不便をかけないこと、施設運営に支障がないこと等を前提に、効率的な執行に努め、適切に執行した。 	B
指定管理者の経営状況	経営基盤の安定及び計画に沿った管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・公益法人としての活動について、毎年、公益認定委員会の評価を受けている。 ・当事業団は、昭和60年の設立以来、借入金及び貸付金等はない。 ・業務を適正に成し得るだけの有資格者、経験者を有しているほか、職員の資質向上にも努めており、十分な管理能力を保持していると考ええる。 ・経費縮減等の努力を継続して行っている 	B
(施設所管課評価) ・成果のあった点 ・改善を要する点	<ul style="list-style-type: none"> ○成果のあった点 概ね適正に運営されていると認められる。 ○改善を要する点 特になし。 		B

※（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

<p>① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体・個人との連携・協働を進めている。今年度も山田町農林課と協働して、活動エリアのナラ枯れ木の伐木撤去を行い整備した。その他、潮風みちのくトレイルのコースになっている登山道の整備、海の活動で使用する浦の浜海水浴場の整備を山田町水産商工課と協働して行った。倒木材を利用し活動エリア内の階段、杭の補修整備もした。 ・山田町教育委員会の協力を得て開催している、陸中海岸青少年の家における目玉事業ともいえる「海の子野外教室」は参加者の評価が高く、利用促進につながっている。 ・平成30年度に上記団体等と「事業企画担当者情報交換会」を立ち上げ、それぞれの課題、思いを持ち寄り、協議を進めることができた。今後も自主事業や施設利用者の確保、施設管理の面において、これら団体等と関係を強化していきたいと考えている。 ・広く外部の意見・提言を求めるために、外部有識者委員会「運営協議会」を実施しており、令和5年度で第11回目となる。当所の運営についての意見・提言のほか、事業等で活用できる有用な情報を多数寄せていただいた。本委員会を通して、当所の活動方針や現在取り組んでいる課題等への理解・周知が進んでいるものと考えている。 ・フリースクールとの連携が強固なものになり、年間を通して多くの学びの場を提供している。団体からの評価も高く、利用促進につながっている。 ・安全で快適な利用環境を維持するため、敷地内及びウォークラリーコースの芝草刈のほか、枯損木の除去、枝打ち、グラウンド不陸整地等、利用環境の向上・美化、安全確保に取り組んだ。計画的な研修育成に努め

<p>た結果、課題となっていた刈払機・チェンソー有資格者も増え、作業効率が向上した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員による不良個所の補修等により、管理運営費縮減に積極的に取り組んだ。 ・玄関前や花壇の環境美化に取り組んだ。
<p>② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の老朽化への対応 ・大震災後の沿岸地区の人口減、児童・生徒数減少の中での利用者確保 ・地域、技能者、団体との連携・協働の積極的な取り組み ・地域、施設が抱える課題解消の取り組み
<p>③ 県に対する要望、意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の老朽化に伴う本格的な改修が必要と思われる。 ・改修も必要と思われるが、危険な建物については解体することも検討しなければならない時期に差し掛かっていると思われる。 ・施設改修にあたっては、環境へ配慮し、省エネ構造にするようお願いしたい。

(2) 県による評価等

<p>① 指定管理者の運営状況について</p> <p>自然環境を活かした自主事業や出前授業等による利用者確保や学びの場の提供のほか、環境整備及び広報活動にも力を入れ、施設の利用促進に向けて取り組んでいる。</p>
<p>② 県の対応状況について（自己評価）</p> <p>毎月の定期報告により施設の管理状況・利用状況を把握するとともに、施設・設備の老朽化が進んでいることから、指定管理者との連携により修繕状況の把握に努めた。</p>
<p>③ 次期指定管理者選定時における検討課題等</p> <p>管理料積算にあたり、人件費や物価の変動等を適切に反映するよう検討する。</p>

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）
該当なし
改善状況
（指定管理者から県への報告年月日：令和 年 月 日）
改善状況の確認
（確認年月日 令和 年 月 日）